

科目名称:	英語コミュニケーションⅡ (ビジネス実務学科)	
担当者名:	井上 克洋	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>本演習では、企業のビジネス活動において最低限必要な英語力を身につけることを目標に、英米文化に触れながら、基礎的な英文法や言い回しなどを徹底的に学びなおします。語学力を高めるには、その外国語に長く接することが必要不可欠なので、予習・復習時間を通して英語に長く接していただけるような環境を整えます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>①高校までの英文法を習得し直し、英語コミュニケーションに必要な簡単な英文を読み書きできるようになること。②初歩的なビジネス英会話が可能になること</p>		

基礎教育科目	ディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	重点項目
DP (1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	○
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP (3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP (1)		90		10	100
全学DP (2)					0
全学DP (3)					0
全学DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容 (内容・経験年数を記載)	
なし		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
英文法の理解	高校までの基本的英文法を完全に習得	高校までの基本的英文法を凡そ習得	高校までの基本的英文法について説明すれば理解できる	高校までの基本的英文法について説明しても理解できない
英語によるコミュニケーション	講義で学んだフレーズを自由に使いこなし英会話可能	講義で学んでフレーズをある程度使いこなし英会話可能	講義で学んだフレーズを理解できるが、言葉としてなかなかでてこ	講義で学んだフレーズを理解できない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 be動詞と基本的英単語・ペアワーク(グループワーク)	be動詞について予習しておく。	40分
第2回 一般動詞と基本的英単語・ペアワーク(グループワーク)	一般動詞について予習しておく。	40分
第3回 時制Ⅰ(過去形・現在進行形・未来系)・ペアワーク(グループワーク)	時制について予習しておく。	40分
第4回 助動詞と基本的英単語・ペアワーク(グループワーク)	助動詞について予習しておく。	40分
第5回 不定詞と基本的英単語・ペアワーク(グループワーク)	不定詞について予習しておく。	40分
第6回 小テスト	過去5回の講義レジュメを復習し、小テストに備える。	40分
第7回 比較級と基本的英単語・ペアワーク(グループワーク)	比較級について予習しておく。	40分
第8回 動名詞と基本的英単語・ペアワーク(グループワーク)	動名詞について予習しておく。	40分
第9回 受動態と基本的英単語・ペアワーク(グループワーク)	受動態について予習しておく。	40分
第10回 時制Ⅱ(現在完了・過去完了)と基本的英単語・ペアワーク(グループワーク)	現在完了について予習しておく。	40分
第11回 小テスト	過去4回の講義レジュメを復習し、小テストに備える。	40分
第12回 分詞と基本的英単語	予習分詞について予習しておく。	40分
第13回 よく利用される英語構文と基本的英単語	予習基本構文について予習しておく。	40分
第14回 関係代名詞と基本的英単語	予習関係詞について予習しておく。	40分
第15回 小テスト	過去3回の講義レジュメを復習し、小テストに備える。	40分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、中学・高校時代に学んだ英語のテキストを読み返し、次回単元の予習ををまとり、復習をまとめたりする。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
30%の小テストを3回実施、残りの10%は各学生の授業への関与度合で採点する。

課題に対してのフィードバック

小テストに関しては、テスト後の講義時間内に、全問題の解説を行う。

教科書・参考書

講義レジュメを毎回配付する。参考書については、適宜紹介する。